

2025年3月期 第1四半期 決算説明資料

2024年4月～2024年6月（第196期第1四半期連結累計期間）

2024年 7月 29日

日本車輛製造株式会社

目次

1. 2025年3月期第1四半期累計連結決算の概要
 - (1) 業績の要約
 - (2) セグメント別業績

2. 2025年3月期 連結通期業績見通し

業績の概要（2025年3月期 第1四半期累計期間）

売上：鉄道車両事業、エンジニアリング事業の減収の一方で、
建設機械事業、輸送用機器・鉄構事業の増収により増収

利益：建設機械事業の増益の一方で、鉄道車両事業、
輸送用機器・鉄構事業の減益により減益

（単位：億円）

	前年同四半期	当第1四半期	増減	前期比
売上高	210	214	+3	+1.8%
営業利益	14	2	△11	△80.9%
経常利益	15	4	△11	△71.4%
（売上高経常利益率）	（7.5%）	（2.1%）	（△5.4%）	—
親会社株主に帰属する 四半期純利益	15	5	△9	△64.4%

セグメント別業績（2025年3月期 第1四半期累計期間）

（単位：億円）

	売上高			営業損益		
	前年同 四半期	当第1 四半期	増減	前年同 四半期	当第1 四半期	増減
鉄道車両	110	108	△2	6	1	△4
建設機械	43	50	+6	7	10	+2
輸送用機器・鉄構	44	45	+1	2	△5	△8
エンジニアリング	12	10	△1	△1	△0	+0
その他/調整額	0	0	+0	△1	△2	△1
合計	210	214	+3	14	2	△11

※ 「調整額」は、セグメントに帰属しない一般管理費、セグメント間取引消去などを含んでいる

鉄道車両事業

<売上高>

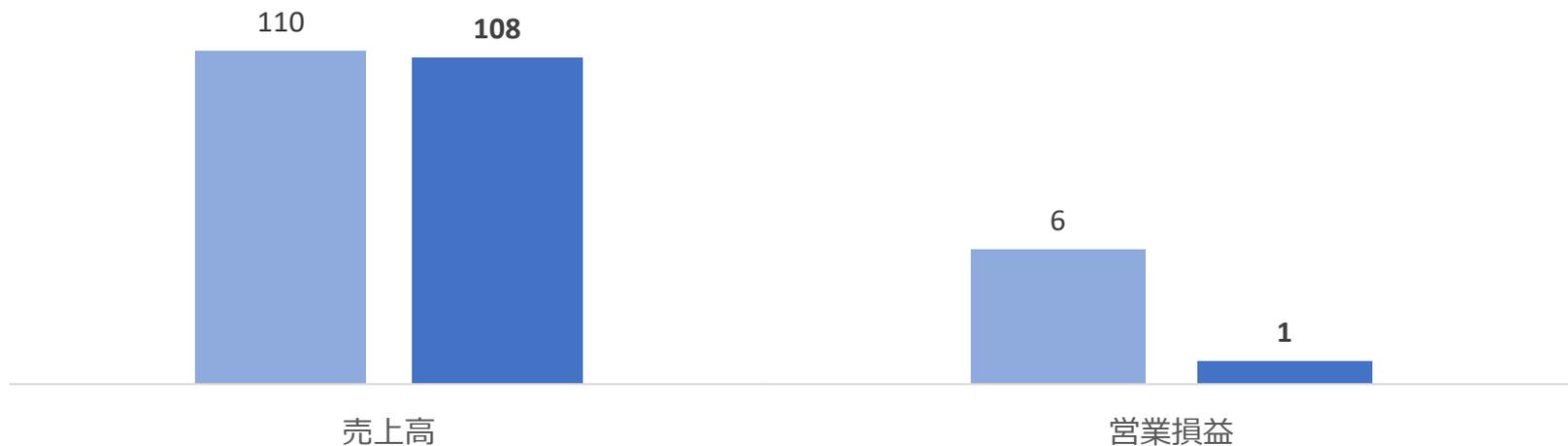
- ▶ J R東海向けN 7 0 0 S新幹線電車や3 1 5系電車、東京都交通局向け電車、名古屋鉄道向け電車などの売上があったが、J R向け車両の売上が減少したことなどにより減収。

<営業損益>

- ▶ 主に売上製品構成の変動により減益。

(単位：億円)

■ 前期 ■ 当期



建設機械事業

<売上高>

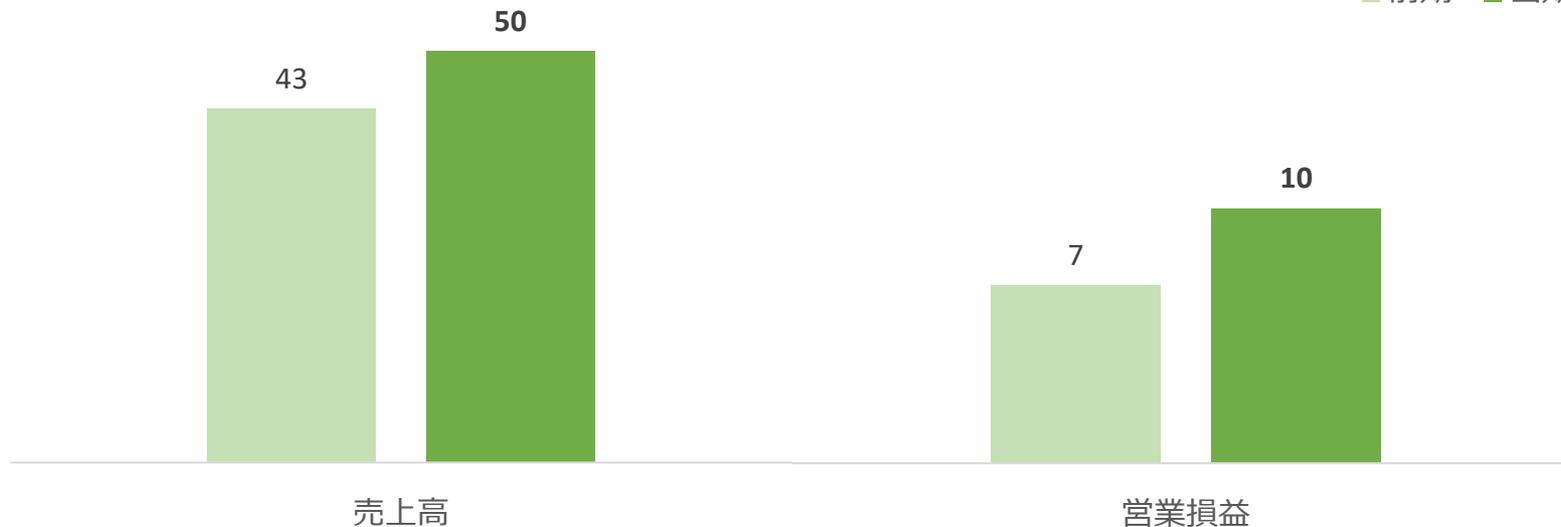
- ▶ 大型杭打機、小型杭打機、全回転チュービング装置などの売上があり、大型杭打機の売上が増加したことなどにより増収。

<営業損益>

- ▶ 主に増収により増益。

(単位：億円)

■ 前期 ■ 当期



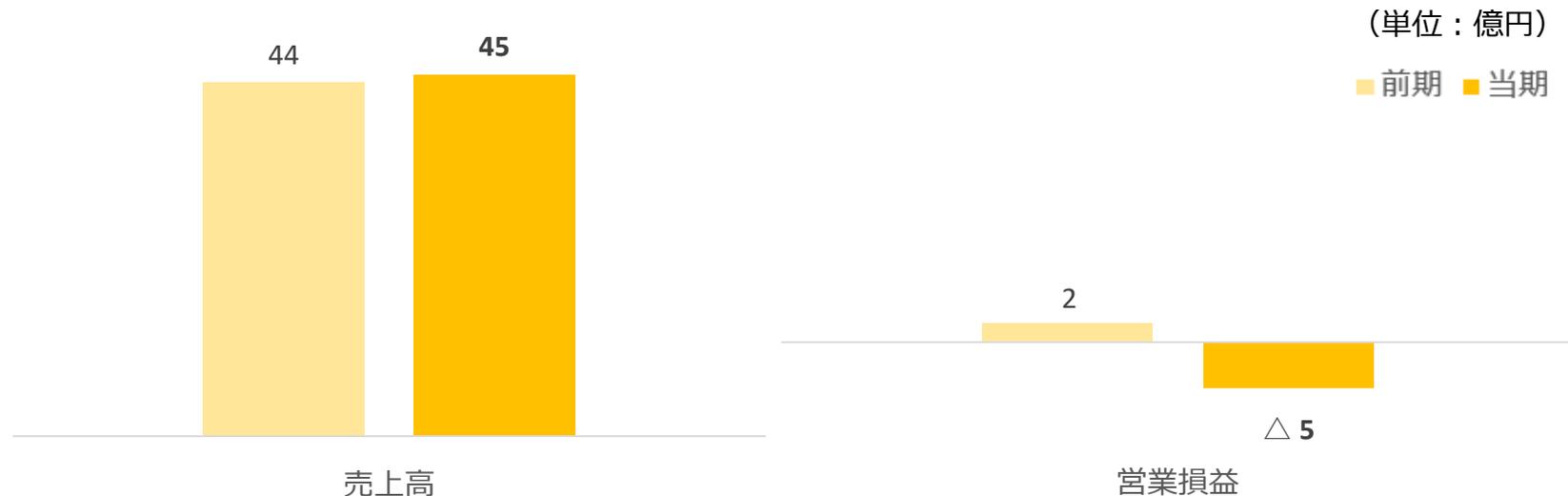
輸送用機器・鉄構事業

<売上高>

- ▶ 輸送用機器は、民生用バルクローリ、大型自走式キャリア、無人搬送装置、貨車などの売上があり、LNGタンクトレーラの売上は増加したが、無人搬送装置などの売上が減少。
- ▶ 鉄構は、飯沼川高架橋、東海環状員弁川橋、養老IC本線橋などの売上があり、道路橋の売上が増加。
- ▶ 事業全体では増収。

<営業損益>

- ▶ 増収の一方で、売上製品構成の変動に加え、鉄構事業の変更契約協議中の一部の案件で原価が先行発生し、一時的に採算が悪化したことなどにより営業損失を計上。



エンジニアリング事業

<売上高>

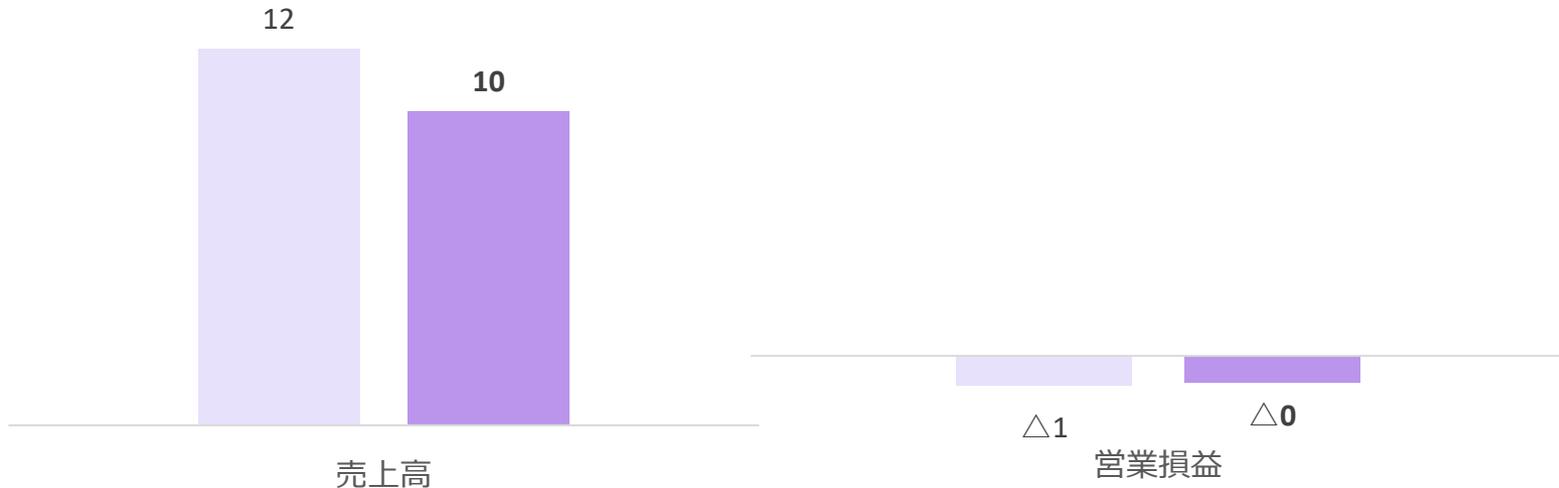
- ▶ 鉄道事業者向け機械設備のほか、家庭紙メーカー向け製造設備、各地のJ A向け営農プラントなどの売上があったが、鉄道事業者向け機械設備の売上が減少したことなどにより減収。

<営業損益>

- ▶ 減収ではあったものの、前期並み。

(単位：億円)

■ 前期 ■ 当期



2025年3月期 連結通期業績見通し

※前回（2024年4月26日付け）公表いたしました予想値から変更はありません。

2024年3月期との比較

売上高：鉄道車両事業、建設機械事業及び輸送用機器・鉄構事業の増収により、増収となる見通し

利益：建設機械事業及びエンジニアリング事業で増益するものの、鉄道車両事業及び輸送用機器・鉄構事業で減益となることから、全体として減益となる見通し

（単位：億円）

科目	2024年3月期 (実績)	2025年3月期 (業績見通し)	増減	前期比
売上高	880	910	+29	+3.3%
営業利益	60	55	△5	△9.2%
経常利益	63	57	△6	△9.6%
(売上高経常利益率)	(7.2%)	(6.3%)	(△0.9%)	—
親会社株主に帰属する 当期純利益	53	50	△3	△7.1%

日本車両

※本資料の業績見通しに記載されている将来の数値は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績は様々な要因により大きく異なる可能性があります。